

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **50** 号

平成16年 7・8・9月



金冠〈天馬塚古墳〉 韓国・国立慶州博物館〔国宝188号〕

特別展

黄金の国・新羅
—王陵の至宝—

東・西新館

特別陳列

金飾の古墳時代

—副葬品にみる
日韓交流の足跡—

西新館

親と子のギャラリー

古地図を
読みとく

西新館

平常展

仏教美術の名品

本館・西新館

中国古代青銅器

本館

同時開催 7月10日(土)～8月29日(日)

特別展

黄金の国・新羅

― 王陵の至宝 ―

- ◆ 会期 平成十六年七月十日(土)～八月二十九日(日)
- ◆ 会場 奈良国立博物館 東・西新館
- ◆ 主催 奈良国立博物館・韓国国立慶州博物館
- ◆ 後援 産経新聞社・NHK奈良放送局・奈良市・奈良市教育委員会
- ◆ 協力 日本航空

古来より韓国とわが国は交流や交易によって深く結びついてきました。新羅の都が置かれた古都・慶州は、同じく古都である奈良市と姉妹都市の協定を結び、現代においても密接な交流を行なっています。

この度、以前から学術交流を続けてきました韓国国立慶州博物館と奈良国立博物館との共同開催展として、国立慶州博物館所蔵の新羅古墳の出土品、国宝4件・指定宝物6件を含む98件210点を一堂に展示いたします。

慶州では、現在でも町の至るところで古墳を目にすることができ、まばゆいばかりの金冠など12000点近くにもぼる各種の装身具・武器・馬具などが出土した天馬塚古墳をはじめとして、三国新羅時代に築造された王陵にはさまざまな装身具・武器・馬具・土器など多くの品が副葬されました。これらの新羅の王陵が築造された時代は、朝鮮半島と日本との交流が非常に盛んで、それによってもたらされた新たな文物や技術が日本の古墳文化に強い影響を与えました。展示では、まず豪華絢爛な金製品が出土した

ことで有名な天馬塚古墳の主だった出土品をご覧いただきます。続いて、皇南大塚・金冠塚などの王陵・王陵級の古墳から出土した、王の威厳を表す武器・馬具類、王の豪華な生活をうかがわせる金・銀・ガラス製の容器類、王の装いを彷彿とさせる金・銀・玉製の装身具類、そして古代新羅人のおおらかさが表現された土偶や、土偶で装飾されたうつわなどの土器類を展示いたします。

今回の見どころでもある新羅の黄金製品の技術は、当時の東アジアの中でも抜きん出ており、スキタイ文化など北方ユーラシアに展開した黄金文化の影響を色濃く受けていたと考えられています。一方、シルクロードを経て伝わったローマンガラスなどが出土するのも新羅古墳の特徴のひとつです。このように、東西交流を如実に示すという意味で新羅の独自性が見てとれます。こうした新羅文化は断片的にはありますが、確実に古代日本にももたらされていました。そのことは、日本各地の古墳から新羅の文物によく似た装身具や武器・馬具・土器などが出土することからもわかります。

距離的にも文化的にも近い国でありながら、これほどの重要な遺跡の遺物が一つのテーマ性をもつて展示されるのは日本で初めてのことです。まばゆいばかりの王者の至宝から、古代の日本と韓国の関係に思いをめぐらせていただけたら幸いです。



金製鳥翼形冠飾〈天馬塚古墳〉
韓国・国立慶州博物館【宝物 618 号】



金製冠帽〈天馬塚古墳〉
韓国・国立慶州博物館【国宝 189 号】

特別陳列

金飾の古墳時代

－副葬品にみる日韓交流の足跡－



●金銅製透彫鞍金具（一号鞍後輪）〈磐田丸山古墳〉
磐田八幡宮

特別展「黄金の国・新羅―王陵の至宝―」にあわせ、同時代の日本の古墳から出土した金製耳飾りや金銅製馬具など、金色を志向した副葬品を集めて展示いたします。日韓の王者たちが求めた装飾美術の世界とその技術導入の足跡をたどり、相互の文化への深い理解につながることを目指します。

親と子のギャラリー

古地図を読みとく



◎越前国坂井郡高串村東大寺大修多羅供分田図
（部分） 当館

みなさんは地図というどのようなものを感じていらっしゃるでしょうか。一口に地図といってもさまざまなかたちのものがあり、同じ範囲を描いた地図であっても、使用目的や作る人の考え方によっていろいろなものができあがります。今回の親と子のギャラリーでは、わが国で各時代にさまざまな目的でつくられた地図を読むことを通して、それがつくられた時代の歴史的な背景や、当時の人々の考え方をさぐります。

現代の地図とはまったく異なる、古地図の世界に親しんでみましょう。



装飾宝剣 〈味鄒王陵地区〉
韓国・国立慶州博物館【宝物 635 号】



銀製胄甲 〈皇南大塚・南墳〉
韓国・国立慶州博物館【宝物 632 号】



土偶装飾付長頸壺 〈味鄒王陵地区〉
韓国・国立慶州博物館【国宝 195 号】

展 示 評

外からみる奈良博

「法隆寺——日本仏教美術の黎明——」を見て

奈良大学教授 東野 治之



法隆寺展が企画されていると聞いてまず感じたのは、展示構成のむずかしさであった。展示テーマとして「法隆寺」は全く不足のないものであるし、名品の宝庫でもあるから、充実した内容が期待できるばかりでなく、集客力も大きいはずである。しかし、法隆寺そのものが地元奈良に存在し、多くの宝物が創建の伽藍と共に残されていて、完備した展示施設まである。特別展でなければという魅力をどれだけ打ち出せるか、工夫が必要であると思ったのである。

もう一つ思いうかんだのは、この十年余り、新発見も相ついだ法隆寺の文化財調査の成果が、どう生かされるかという研究上の期待である。個々の事実はこれまでの展覧会等で公開されてはきているが、どちらかといえば速報展ないし出開帳的な取り扱いが多く、それらが飛鳥時代の美術や文化にどう位置づけられるかは、あまり明らかでなかった。

実際に展覧会に足を運んだ人は実感されたであろうが、第一にあげたような不安はクリアされていたといえよう。(1)止利様式の成立と展開、(2)仏教工芸の夜明け、(3)若草伽藍から西院伽藍へ、(4)聖徳太子像の形成、という構成のうち、(1)～(3)では法隆寺の宝物を軸に、中国・韓国をも含んだ関連資料を加え、飛鳥時代文化の受けた外的影響と独自の展開が見渡せるように工夫されていた。中でも特別展ならではのことは、金堂西天蓋の展示である。あのような好条件で見られる機会は今後も決して多くないはずである。ただそれだけに、内側の鑑賞は鏡の反射などに委ね、むしろ普通には見れない、やや下がった形での展示があつてもよかつた気がする。また周縁部の羅網は、『太子伝私記』などにすでに亡失していた記録があるわけで、それについても一言解説が欲しかった。この点は今後の館の調査に期待したい。

また(1)(2)を通じ、東京国立博物館の法隆寺献納宝物がかなり出陳されたことも特筆しておきたい。(4)に展示された御物とは異なり、

常設展示で多くを見られる文化財ではあるが、外部に出る機会は少ない。特に小金銅仏は東博での展示が特殊な照明下で行われているので、今回の展示は改めてその美を見直すよい機会になった。なお(2)で展示された香木は、筆者も関わって西アジアとの関係が明らかになった興味深い文化財であるが、こうした消耗品が今日まで伝えられたのは『聖徳太子伝暦』などの「沈水香」説話に結び付けられたためである。その意味では(4)の展示に生かす方が意義深かったと思う。また(3)の展示に鴟尾・鬼板を含む瓦資料が見易い形で集成されたのは、壮観だったばかりでなく、研究者にも有益であつたに相違ない。

(4)での御物の展示が貴重な公開であることはいまでもないが、法華義疏に関連して、奈良時代の帙や牙箋が蔽いの金網をはずした形で展示され、帙の鮮かさが偲ばれたのは幸いであつた。

始めにふれた第二の点は、展示よりも図録に示されたように思われる。とくに梶谷亮治氏、岩田茂樹氏による論説は、それぞれ絵画と彫刻の面から、飛鳥時代美術の流れを再構築する意気込みが読みとれた。また個別解説にみられる館の諸氏の見解にも興味深いものが多い。ただ図録購入が入館者の一部にとどまることを考えると、その内容がもう少し展示場に反映されてもよい。美術博物館という性格からすると、説明過多は好ましくないが、西新館入口の陳列室あたりで、近年の太子研究の問題点も含む形で展開されていたら、一般入館者にも参考になったであろう。図録の成果だけでなく、総じて前記のような展示のメリットもあり広範に周知されていたとは言えない。法隆寺や聖徳太子というテーマが一般にもなじみ深いだけに、入館者の掘り起こしにいま一步の感があつたのは惜しまれるところであろう。



金銅製心葉形杏葉〈珠城山三号墳〉 当館



金製垂飾付耳飾〈塚山古墳（星塚古墳）〉 当館



蒙古鉢形眉庇付冑〈五条猫塚古墳〉 当館

特別展

黄金の国・新羅

― 王陵の至宝 ―

7/10〜8/29 東・西新館

I 天馬塚のかがやき

金冠「国宝」八八号、鈐帶・腰佩「国宝」九〇号、冠帽「国宝」八九号、鳥翼形冠飾「宝物」六八号、螺旋形冠飾「宝物」六七号、垂飾付耳飾、釧、指輪（以上、国立慶州博物館）、鞍輪（国立中央博物館）、鏡板（馬鐸（以上、国立慶州博物館）、鏡板（国立中央博物館）、杏葉、裝飾環頭大刀「宝物」六三二号、小型鏡、蓋杯、長頸壺、台付長頸壺、有蓋短頸壺、有蓋横瓶（以上、国立慶州博物館）（以上、天馬塚古墳

II 王の威信―武具と馬具―

鞍輪〈皇南大塚古墳・南墳〉、寄生（出土地不詳）、轡・銜（月城路カ三号墳）（以上、国立慶州博物館）、環鈴（金冠塚古墳（国立中央博物館）、雲珠（皇南大塚古墳・南墳）、雲珠（金冠塚古墳）、杏葉（皇南大塚古墳・南墳）、杏葉（鷄林路）、小型馬鐸（金冠塚古墳）、裝飾宝劍「宝物」六三三号（味都王陵地区）、肱甲「宝物」六三三号（環頭大刀・裝飾大刀・鉄矛・有刺鉄矛・方柱形鉄棒・鉄鏃・鉄斧・鉄鋌（皇南大塚古墳・南墳）（以上、国立慶州博物館）

III 華麗なる器の世界

杯（瑞鳳塚古墳、高杯「宝物」六二六号）（皇南大塚古墳・北墳）（以上、国立慶州博物館）、鏡（金冠塚古墳）（国立中央博物館）、小型鏡・大型鏡、注口付小壺・勺子（皇南大塚古墳・南墳）、忍冬文鏡（忍冬塚古墳）、長頸壺（皇南大塚古墳・南墳）（以上、国立慶州博物館）、鍬斗（瑞鳳塚古墳）（国立中央博物館）、高徳興藏銘鍬斗（慶州・皇吾里三六号墳）（国立慶州博物館）

IV 王たちの装い

垂飾付耳飾（梁山・金鳥塚古墳）（東亜大学校）、垂飾付耳飾（金冠塚古墳）、垂飾（皇吾洞）、垂飾（校洞六四番地）、垂飾付耳飾（皇南大塚古墳・北墳）、垂飾付耳飾（皇吾里五号墳）、垂飾付耳飾（金尺里古墳）、釧（未詳）、釧（金冠塚古墳）、指輪（未詳）、指輪（皇南大塚古墳・南墳）、指輪（金冠塚古墳）、小型鈴（皇南大塚古墳・南墳）、勾玉（未詳）、玉類（瑞鳳塚古墳）、首飾（皇南大塚古墳・北墳）、胸飾（月城路カ三号墓）、首飾（皇南大塚古墳・北墳）、鈐帶・腰佩（慶州・金尺里（以上、国立慶州博物館）、飾履（義城塔里二柳）（国立大邱博物館）

V 新羅ひとの造形―土偶と土器―

土偶裝飾付長頸壺「国宝」九五号（味都王陵地区）（国立慶州博物館）、騎馬人物像（慶州・徳川里）（国立慶州博物館・国立中央博物館）、人物土偶（未詳）（国立慶州博物館、動物土偶（未詳）（国立慶州博物館、国立中央博物館）、土偶裝飾付蓋（月城路）、土偶裝飾付有蓋高杯（月城路二一号）、土偶裝飾付有蓋高杯（未詳）、馬文線刻蓋（皇南大塚古墳・南墳）、土偶裝飾付台付長頸壺（未詳）、車形土器（鷄林路二号甕棺）、角杯（未詳）、角杯台（未詳）、鈴杯（未詳）、把手付杯（未詳）、饌盒形土器・燈臺形土器（慶州・徳川里）、饌盒形台付土器（未詳）、台付注口小壺（慶州・徳川里）、有蓋高杯（慶州・仁旺洞）、高杯（皇南大塚古墳・南墳）、器台・有蓋高杯（皇南大塚古墳・北墳）、鉄金蓋・器台・大型壺（皇南大塚古墳・南墳）（以上、国立慶州博物館）

参考資料

玉虫、天馬塚金冠製作模型、天馬塚木棺模型、胡録・鍬（壺杆塚古墳）（以上、国立慶州博物館）

特別陳列

金飾の古墳時代

― 副葬品にみる日韓交流の足跡 ―

7/10〜8/29 西新館（北側）

「五条猫塚古墳」蒙古鉢形眉庇付冑（7/14より展示）、小札銀留眉庇付冑、鉄地金銅装頸甲、金銅製龍文透彫帯金具、鉄製工具（以上、当館）、蒙古鉢形冑復原品（市立五條文化博物館）。「塚山古墳（星塚古墳）」金製垂飾付耳飾、金銀象嵌門頭大刀頭（以上、当館）。「珠城山一号墳」金銅製鞍金具、金銅製劍菱形杏葉、金銅製雲珠（以上、当館）。「珠城山三号墳」鉄地金銅装心葉形鏡板・同杏葉（以上、当館）、心葉形鏡板復原品（檀原考古学研究所附属博物館）。「龍王山C三号墳」単鳳文環頭大刀柄頭、「割塚古墳」金製垂飾付耳飾、「三里古墳」金銅製雲珠・辻金具、「オイダ山古墳」ミニチュアカマド（以上、檀原考古学研究所附属博物館）。「一須賀W一号墳」金銅製飾履・同復原品、「南塚古墳」鐘形杏葉復原品（以上、近つ飛鳥博物館）。「平尾山古墳群大泉二〇支群三三三号墳」単竜文環頭大刀柄頭、「高井田山古墳」金製耳飾、ガラス玉首飾・手・足飾式、画像鏡、青銅製鍬斗、須惠器台付壺・器台（以上、柏原市立歴史資料館）。「太平寺横穴群八号墳」金銅製耳飾、金銅製かんざし、「大泉遺跡」韓式系土器（甗）（以上、柏原市立歴史資料館）。「山畑三三三号墳」鉄地金銅装鐘形杏葉、「山畑二二二号墳」須惠器裝飾付子持器台（以上、東大阪国立郷土博物館）。「愛宕塚古墳」鉄地金銅張子持剣菱形杏葉、鉄地金銅張垂飾板、銀象嵌龍文韃金具（以上、大阪府教育委員会）、「芝塚古墳」銀象嵌亀甲繫花文柄頭・同心葉文韃尻・同鐙、「大石古墳群」須惠器裝飾付器台（以上、八尾市立歴史民俗資料館）。「郡川西塚古墳」

親と子のギャラリー

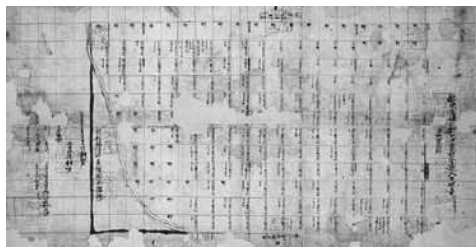
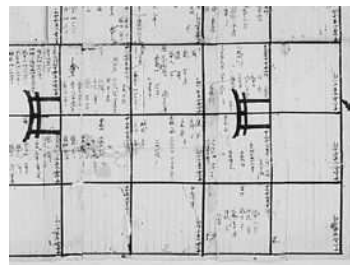
古地図を読みとく

7/10〜8/29 西新館（南側）

※一部会期中に展示替をおこないます。

◎東大寺開田図（越前国坂井郡高串村東大寺大修多羅供分田図）越中国砺波郡石栗村官施入田図・越中国射水郡鹿田村壱田図・越中国射水郡鳴戸村壱田図（当館）、伯耆国河村郡東郷庄之図（東京大学史料編纂所）、大和国虚空藏寺領絵図（東大寺）、◎大和国西大寺与秋地図（弘安三年）、◎大和国西大寺与秋篠寺界相論絵図（以上、東京大学文学部）、西大寺領諸庄園現存日記、西大寺本檢注並目錄取帳、西大寺当行衆交名注文ほか（以上、西大寺）、神泉苑図、大和国乙木庄条里坪付図、◎山王宮曼荼羅、春日社寺曼荼羅、東大寺山界四至圖寫、額田寺伽藍並条里圖寫、平城宮大内裏跡坪割之圖寫、平城旧趾之圖（以上、当館）

※一部、会期中に展示替をおこないます。



石製舍利容器、金銅製棺形舍利容器、

銅銭弘倣八万四千塔(以上、当館)、●金銅透彫舍利容器(西大寺)、○金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、○金銅五輪塔形舍利容器(浄土寺、銅宝篋印塔、金銅宝塔形舍利容器、金銅蓮台形舍利容器(以上、当館)、○密観宝珠嵌装舍利厨子(般若寺)、密観宝珠嵌装舍利厨子(金剛山寺)、密観宝珠嵌装舍利厨子(個人)、五輪塔嵌装舍利厨子(当館)、百万塔(個人)、百万塔(個人)、○金銅透彫経筒(万徳寺)、○法華経彩絵厨子(清凉院)、●牛皮華鬘(当館)、牛皮華鬘(峰定寺)、●金銅透彫華鬘・幡頭(金色院)、○金銅種子華鬘、金銅種子華鬘(以上、当館)、金銀装尾長鳥文説相箱(個人)、黒漆獅子牡丹文説相箱、○紙胎蓮華文華籠(以上、万徳寺)、●金銅透彫華籠(神照寺)、銅三鉢杵(当館)、○銅三鉢鏡(円福寺)、金銅独鉢杵(薬師寺)、金銅三鉢杵(個人)、金銅五鉢杵(当館)、○金銅独鉢鈴(個人)、○金銅三鉢鈴(個人)、○金銅宝珠鈴(個人)、金銅宝塔鈴、金銅五鉢鈴(以上、当館)、●金銅密教法具・嚴島神社、金銅五瓶(持福寺)、金銅舍利塔(岡寺、金銅六器、金銅火舎、金銅五鉢鈴、金銅五鉢杵、金銅金剛盤、金銅羯磨、金銅輪宝(以上、当館)、金銅輪宝羯磨文戒体箱(金剛寺)、金銅柄香炉(高山寺)、金銅尾長鳥文華鬘(当館)、金銅透彫幡(個人)、刺繡阿弥陀三尊種子(当館)、○銅三具足(聖衆来迎寺)、○鉄釣燈籠、金銅燭台(以上、当館)、金銅香水壺(個人)、銅王子形水瓶、銅王子形水瓶、銅仙蓋形水瓶、銅布薩水瓶(以上、当館)、銅信貴形水瓶(個人)

【考古】
9／7～10／11

〔縄文・古墳時代〕深鉢(伝青森出土)(当館)、弥生土器(大阪府東瓜破大和川床出土)(個人)、須恵器(当館)、○埴輪牛(田原本町)、北和城南古墳(奈良・出土品、陶棺、奈良・西大寺出土)(以上、当館)

〔鬼瓦等〕鳳凰文塼(南法華寺)、平城宮式鬼瓦(奈良・薬師寺出土)(京都国立博物館)、南都七大寺式鬼瓦(伝奈良・大安寺出土)(個人)

〔上野廃寺〕軒丸瓦・隅木蓋瓦・風鐸(和歌山・上野廃寺出土)(当館)

〔鎌倉時代の瓦〕軒丸瓦〔羯磨文〕(京都・法勝寺跡出土)、軒丸瓦〔梵字文〕(京都・東寺勧智院出土)、軒丸瓦〔宝塔文〕(伝大阪・西琳寺出土)、軒丸瓦〔興福寺銘〕(奈良・興福寺出土)、軒丸瓦〔巴文〕(奈良国立博物館構内出土)、春日塔出土瓦〔春日西塔銘〕(奈良・春日塔出土)(以上、当館)

〔経塚〕粉河経塚(和歌山)出土品、白浜経塚(和歌山)出土品、伝北九州出土経筒、銅板経(大分・長安寺出土)、青石経(愛媛・大日堂経塚出土)、瓦経(福岡・飯盛山経塚出土)(以上、当館)、瓦経(兵庫・楽音寺経塚出土)・楽音寺、泥塔経(鳥取・智積寺出土)(当館)

〔火葬墓〕○山代忌寸真作墓誌、灰釉平瓶骨壺(奈良・壺阪寺奥院出土)、○青磁碗・皿(出雲萩打古墓出土)(以上、当館)

パネル展示
修復文化財
9月(予定) 地下回廊

●Ⅱ国宝 ●Ⅲ重要文化財
出陳作品は、都合により一部変更する場合があります。

●公開講座●

7月10日(土) 「新羅人の死―積石木槨墳―」 朴永福氏(前韓国国立慶州博物館館長)

8月7日(土) 「新羅装身具に隠された秘密」 金弘柱氏(前韓国国立慶州博物館学芸研究室長)

8月21日(土) 「新羅の黄金とその社会」 早乙女雅博氏(東京大学助教授)

8月28日(土) 「古墳から出土した新羅の容器」 鄭聖喜氏(韓国国立慶州博物館学芸研究官)

※時間：13:30～ 会場：講堂 定員：200名 聴講無料(13:00より講堂入口で整理券を配布します)

●ギャラリー・トーク●

7月14日(水) 「むかしの地図に描かれたもの」 野尻忠(当館研究員)

8月11日(水) 「新羅の至宝」 岩戸晶子(当館研究員)

9月8日(水) 「荘厳具の世界」 清水健(当館研究員)

※時間：14:00～ 展示会場にて 入館者は聴講自由

●親と子の文化財教室「鎌倉時代の歴史と美術」受講者募集●

第3回 7月17日(土) 心に残る10人のお坊さん

第4回 8月7日(土) お坊さんの収入源

第5回 9月11日(土) 水墨画

第6回 10月9日(土) 現地見学 三十三間堂と六波羅蜜寺(集合場所未定)

第7回 11月13日(土) 現地見学 西大寺〈日本一の五輪塔〉(集合場所未定)

第8回 12月11日(土) 似顔絵の誕生

※小学5・6年生、中学生と保護者を対象とした教室です。

※ハガキまたはFAXで、「親と子の文化財教室参加希望」と明記の上、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加希望の回(何回でも可)を記入して、当館教育室までお申し込みください。 〒630-8213 奈良市登大路町50 奈良国立博物館教育室 FAX：0742-22-7221

※参加費は無料ですが、現地見学では拝観料金等が必要です。

※時間：10:00～12:00 場所：奈良国立博物館 講堂(現地見学以外) 定員：各回100名(先着順)

●展覧会日程●

	7月	8月	9月
本館	平常展(彫刻)・〔中国古代青銅器〕		
東新館	特別展〔黄金の国・新羅〕(7/10～8/29)		
西新館	特別展〔黄金の国・新羅〕(7/10～8/29)		
	特別陳列〔金飾の古墳時代〕(7/10～8/29)		
	親と子のギャラリー〔古地図を読みとく〕(7/10～8/29)		
	平常展〔絵画〕(8/3～8/29)		
			平常展〔絵画・書跡・工芸・考古〕(9/7～10/11)

展示品の 見どころ

垂飾付耳飾

金製 梁山・金鳥塚古墳出土
長さ9.4センチ 6世紀
韓国・東亜大学校

本品は、慶州の南方にある梁山に位置する金鳥塚古墳から出土した美しい純金製の耳飾です。金鳥塚古墳は大量の副葬品で有名な梁山・夫婦塚古墳のすぐ近くにある古墳で、その名前の由来となった金製の鳥足形装飾をはじめ、金銅製の冠、銀製鈐帯^{かたい}などが出土し、耳飾も2対が出土しました。

出土した耳飾のうち本品は鈐帯（いわゆるベルト）の上に置かれていた一対で、鈐帯からぶらさげる装飾品として転用されたのではと推定されています。断面楕円形の中空の円筒を丸く曲げて成形した太い主環の表面に六角形や円文を飾るだけでなく、主環と垂飾をつなぐ遊環にまで円文や波状文が、鏤金^{るきん}という技法で非常に精巧に表出されています。鏤金とは、小さな金粒を蝋付けで貼り付けていく技法のことを言いますが、このような技法による装飾が長さ9.4センチばかりの耳飾にここまでおびただしく細かくおこなわれることには驚きを禁じえません。

垂飾部分には、細い金糸を縄のようにねじって作った連結金具を用いて、11個の歩揺^{ほよう}がつけられています。歩揺は細長い心葉形で、周縁にも鏤金装飾が施されています。最下部のペン先形の垂下飾にも、周縁と中央に鏤金装飾をみることができます。

こうした鏤金装飾が施された耳飾の類例としては、慶州・



夫婦塚古墳出土品、湖巖美術館所蔵品、湖林博物館所蔵品などあまり多くないため、短期間に流行したものと推定されています。本品にみえるスタイルは古墳出土の耳飾の中では製作時期がやや新しい方に属し、皇龍寺木塔の心礎埋納品として出土した7世紀前半の耳飾の祖形となるものとして認識されています。

新羅古墳から出土した金製耳飾の中でも非常に精巧で華麗な本品は、新羅の耳飾を代表する名品中の一つであり、完熟期にさしかかった新羅の金属工芸技術を示す好例と言われています。

ぜひ、このすばらしい金細工・金装飾を間近にご覧ください。

（岩戸 晶子）

開館予定(7月～9月)

■開館時間 午前9時30分～午後5時、ただし毎週金曜日および8月14・15日(土・日)は午後7時まで（入館は閉館の30分前まで）

■休館日 毎週月曜日
(ただし7月19日(祝)、8月16日、9月20日は開館。7月20日(火)、9月21日(火)は休館)

■観覧料金 特別展 黄金の国・新羅—王陵の至宝—

	大人	大学・高校生	中学・小学生
一般	1,000円	700円	400円
団体・前売	900円	600円	300円

*団体は責任者が引率する20名以上。

*特別展料金で平常展・特別陳列・親と子のギャラリーもあわせてご覧いただけます。

平常展・特別陳列・親と子のギャラリー

	大人	大学・高校生
一般	420円	130円
団体	210円	70円

*敬老の日(9月20日)の平常展は無料でご覧いただけます。



〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。



奈良国立博物館
Nara National Museum